

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193800117		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム 静内さくら館2		
所在地	日高郡新ひだか町静内駒場5番40号		
自己評価作成日	令和2年10月28日	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193800117-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和2年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

太平洋を望む立地に建てられており、太陽が海に沈む景色がとても綺麗で、鮮やかな夕焼けが太平洋に沈み込むように日が暮れていきます。建物横にはビニールハウス、前庭には花壇と野菜畑があり、土いじりの好きな方は花を植えたり、水やりや手入れに勤しみ、収穫を楽しんでいます。季節に応じて行楽を楽しんだり、温泉に行くなど全員で外出する機会を設けています。毎日、体操やレクリエーションを行い体を動かし、天気の良い日は外へ散歩に行ったり車でドライブなども支援しております。また、ホーム居室は各室にトイレと洗面所が配置されプライバシーに配慮され、ご自分のペースで過ごせるようになっていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念、ケア理念を掲示し具体的に大切にすることを職員間で話し合い、管理者と職員は理念を共有し実践につなげている。その内容を毎朝の申し送り時に復唱しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度はコロナウイルス予防の為、自治会の方からも行事などは中止と連絡があり、交流をする事が難しい状態でした。手紙や電話などで連絡を取り合っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町が推進している認知症カフェの開催を継続していましたが、今年度はコロナウイルス予防の為、開催する事ができませんでした。家族には、毎月利用者様の状況などを手紙で知らせています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度郵送にて開催しており、地域包括支援センター職員、自治会長、家族等が参加し生活状況の報告、事故やヒヤリハット等の報告し、意見交換をしサービス向上に活かしている。意見要望など返信して頂く。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情や空き状況、ケアサービスの取り組みを郵送にて伝え、指導、助言、情報を得ている。利用者様の入居や退去時にはその都度報告し、日頃から協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を2ヶ月に1回開催しています。毎月の職員会議にて、身体拘束について理解を深めるとともに、ご利用者様に対する言葉の掛け方についても、気をつけるようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしない為の研修時に虐待防止法についても一緒に研修をしている。普段から身体拘束や虐待はしないという意識を持っている。ストレスをため込まないようコミュニケーションをとっている。職員の意識を高めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、全職員が研修を通じて理解し、必要に応じて関係者と話し合い、支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際に契約内容をすべて説明し、利用開始にあたり、ご本人様、ご家族様の疑問、要望に対して説明し、ご理解を頂き納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中でから、利用者様の思いの理解や意見を聞き、安定した生活ができるよう努めています。苦情等相談窓口「ホーム担当者、町の担当者、道の担当者」を明確にし、掲示しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見を言える雰囲気や関係に努め、提案等については実現できるよう一緒に考えるようにしている。月に1度のミーティングでは職員からの意見などを聞いて検討し反映されています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の待遇や給料待遇の見直しを行い、職員の意欲向上につなげています。年2回の職員の個人面談を行い、仕事のやりにくさ、意見や要望等を聞き取り、各自が向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修はすぐに管理者が行い、会社が毎年行う研修会は、コロナウイルス予防の為開催せずに、働きながら介助、声掛けの仕方などを指導するなどし、育成に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政のケア会議に参加したり、研修会に参加し同業者とのグループワークを通じ、色々な事例などを聞くことができ、サービスの質を向上させていけるように努めていましたが、今年はコロナウイルス予防の為ケア会議や研修は行いませんでした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後の生活を具体的にイメージできるよう努めています。居室の中での動きやホームの1日の流れ、1週間、1ヶ月の流れを時には写真などを使い説明しています。その中で困り事や不安に思う事があれば、どの様に支援していけるかを煮つめています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でご家族様の思いや要望などを聞き、出来る事も出来ない事もある事を、良くお話しし、約束したことは必ず守っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提供された情報や面談時に、ご本人様やご家族様からお聞きした内容に基づき、まず必要としている支援を重点的に行っています。他のサービス利用が良いケースは、地域包括支援センターへつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできる事、やりたい事を優先し、自室の掃除、台所仕事、洗濯物干しなど慣れ親しんだ手順で、できる作業をしています。職員を手伝ってくれる事も多く、助けられています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで近況をお知らせしています。大事なことはご家族様と相談して決めています。必要なところではご協力頂き、これまでも歩行器の使用など、ご本人様に強い抵抗がある場合、ご家族様が練習に加わることでスムーズに行えた事があります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃から長年通う理髪店に行く、同級生に会う、町に買い物に行くなどこれまでの生活を断ち切らないよう支援しています。今年度はコロナウイルス予防の為外出は控えています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に惹かれ合う人達もいるが、必ずしも皆がそうではないので、レクリエーションや歌の会といった団体で行えるお楽しみ会を作っている。皆で1つの事を行うことで、話題作り、仲間作りになっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても「何かありましたら、相談、支援などに努めますので、ご連絡ください」と伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活から一人ひとりの思いや意向を把握し、意思疎通が困難な場合は表情や仕草、希望や思いを把握し、全職員が共有するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、これまでのサービス担当者から生活歴や生活環境、趣味や好みなど情報収集し、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常生活を細かく観察、記録し、毎日のバイタル測定で体調の把握にも努め、変化に気づける対応をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活での関わりの中で、気づいた事などをカンファレンスで意見、提案などを全職員でし、一人ひとりに沿った介護計画を作成しご家族様には同意を得ています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実施記録と共に、日々の様子や変化など必ず生活記録に記録し、申し送りなどで共有している。本人様の言葉や思いをありのままに記載しその後のプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、ホーム以外での活動、コンサートに職員が同行して行くなど、対応可能な要望は既存のサービスにとらわれず、その都度柔軟に対応しています。今年度はコロナウイルス予防の為外出は控えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体の協力で、さくら館祭りには民謡やマンドリン演奏など、楽しみを持って頂けるよう支援しています。今年度はコロナウイルス予防の為ボランティアの方は呼ばず職員が踊り歌を歌うなどし利用者様と一緒に楽しみました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向を尊重し、希望する病院を継続し受診出来る様、支援しています。受診が難しい方には、往診で診てもらえるよう体制もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に気づいた時は記録に残し、看護師や主治医に相談し対応させて頂き支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い情報提供を行い、ご本人様、ご家族様が安心して治療できるよう主治医や担当ナースとも話し合う時間を作って頂く。早期に退院できるよう努め、ご家族様と一緒に対応や注意事項など聞き関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご家族様と十分に今後の事を説明し、ご本人様、ご家族様の意向を確認し、同意書を交わしています。入居中に重度化しつつある段階でも、説明し話し合い、その都度同意書を交わしホームで出来る支援を説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、全ての職員が対応出来るよう、定期的に普通救命講習を受け、訓練をして実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を、年2回消防士が立会い実施しています。二階の入居者様で歩けない方は、担架を使用し避難して頂いています。自治会の避難訓練にも参加させて頂き協力体制を築いています。今年度はコロナウイルス予防の為参加していません。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への接し方に十分に気を付け、自尊心に配慮した対応が出来るよう心掛けています。他者様とのトラブルにならないよう、自然な声掛けをし、本人のプライドに配慮した言葉掛けをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しの事でも選択肢を設けたり、目で見て選んで頂くなど自己決定できるよう、また希望が叶えられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から業務を優先せず、各入居者様のペースを大切にしています。その方らしい過ごし方が出来るよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服を選んで頂いたり、鏡の前で身だしなみを整えて頂いている。床屋に行ったり、行けない方は出張の美容室を予約し身だしなみに配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ソースや醤油などは食卓に置き、ご自分で選んで頂いています。朝食にパンを食べる方や、牛乳を飲む方など希望に合わせています。嫌いな物が出た時は、違うものに変えて提供しています。食事の味見や、食器洗いなども自主的に行ってくれています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分摂取量を記録し、一目で分かるようにしています。トロミや刻みの他にも栄養補助食を提供するなど一人ひとりに合わせています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人ひとりのペースに合わせて声を掛け主に居室の洗面所にて口腔ケアをしています。拒否がある時は、時間を置き声掛けしています。義歯の方は夜に洗浄剤を使用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録しそれを元に一人ひとりの排泄のパターンを把握し誘導をし、できるだけトイレで快適な排泄が出来るよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず便秘を解消出来るよう、毎日の体操やレクリエーションで体を動かし、食事も乳製品や食物繊維を多く使い予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1番風呂に入りたい方、最後に入りたい方、毎日入りたい方など一人ひとり希望に沿って支援しています。誰もが週に2回、3回は入浴出来るようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて声掛けをし、休息して頂いたり活動を促す声掛けをしています。夜間はゆっくりテレビを見て過ごされる方もおり、習慣に合わせて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個別に見やすくファイリングしています。個々の薬袋を用意し、服薬時も本人の飲み込みまで確認し飲み忘れの無いようにしています。細かな変化があれば主治医や薬剤師にすぐ相談出来る体制になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合った方法で役割が発揮出来るよう場面作りに努めています。食器洗いやモップ掛け、拭き掃除など負担にならないよう見守り支援しています。テレビを見たり歌を聞いたり、畑に行く方もいます。		

グループホーム 静内さくら館2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつや趣味の編み物用の毛糸など、本人が希望する物を職員が代わりに購入したり、季節を感じて頂けるよう桜や紅葉を見に行ったりもしています。コロナウイルス予防の為外出は控えています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理出来る方は少ないですが、少しでも持っている事で安心される事もあり、お小遣い程度は渡している方もいます。職員が管理している方も、欲しい物があれば希望を聞き一緒に買いに行ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話をしたい時にし、気を遣う事なくゆっくり話しが出来るよう対応しています。かける事が出来ない方は職員がかけ、お話し出来るよう努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎日の掃除で清潔を保ち、季節に合った飾り付けをしています。温度計も何か所に置き常に温度管理をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間、食堂にはテレビの近くにソファやテーブルがあり、1人で横になられるなど、それぞれ自由に過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使用していた家具や置き物、植物や花なども好きな方は置き、家族とも相談しながら居心地の良い空間を作るようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立つ事が難しくなってきた方の為に、手すりを増やしたり身体機能に合わせて車椅子、シルバーカーなどを使用している利用者様が安心し、危なくないようにスペースを作ったりしています。		